男女共同参画情報コーナー

とらいあんぐる

～一人ひとりが幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあんぐる」編集員

【問合先】＝本庁企画政策部 コミュニティ課
男女共同参画グループ
TEL(23)5111(内線4612)

去る7月3日(日)、国際交流センターにおいて「男女共同参画フォーラムin薩摩川内」が開催されました。このフォーラムは、公募委員15人による実行委員会で企画・運営しており、18回目を迎えました。

今回は、このフォーラムの内容について紹介します。

▲主催者あいさつを行う新満裕子(しんみつゆうこ)実行委員長

お互いに「ありがとう」と言える社会へ

～キーワード　それは〝わたしたち〟～

パネルディスカッション

性別や年齢、職業、障害の有無に関わらず、一人ひとりが緩やかにつながり合い、支え合い、お互いに「ありがとう」と言える社会を目指し、実施しました。これは、誰もが〝出番と居場所〟を持てるまちづくりに向けて、問題意識の共有や男女共同参画の視点への気付きを得ることを目的としたものです。鹿児島大学副学長の武隈晃(たけくまあきら)氏のコーディネートにより、3組のパネリストがそれぞれの立場から発表した後、意見交換をしました。各パネリストの発表内容は次のとおりです。

ささやかな心配り
～消防団員として～

薩摩川内市消防団
団本部付き女性分団
分団長　宮里英子(みやざとえいこ)氏

現在、本市の消防団員は1260人です。そのうち、女性団員は、それぞれの地域の分団に所属し、災害現場で活動する43人と、私の所属する団本部付き女性分団で、防火や救命などの予防啓発を中心に活動する20人の計63人が在籍しています。私は、団員減少のため女性団員を採用するとの勧誘を受け、平成14年に入団しました。当時は女性6人が入団したものの、活動内容が定まらず、「女性に消防団は務まらん！消防団は男の聖域だ。火を消しに行かない者は消防団ではない！」と言われたこともありました。

活動の手掛りを求め、暗中模索するうちに、少しずつ周りの意識が変化していくのを感じました。団長から「火を消すことも消防団の仕事だが、火を出さないように予防することも立派な役目。自信を持って堂々と頑張りなさい」との激励を受けたこともあり、現在の活動に至っています。

消防団を男性・女性に分けて考えずに、それぞれの持ち場で力を発揮し、お互いを尊重し認め合いながら、自信と誇りを持って活動していきたいです。

▲啓発活動の一つとして取り組んでいるハンドベル隊「リリーズベル」の演奏。澄んだ音色で聴衆を魅了しました。

障害のある人とともに生き、つくる街へ

社会福祉法人
麦の芽福祉会
常務理事　福元巧(ふくもとたくみ)氏

4月から障害者差別解消法が施行されました。障害のある人もない人も、地域社会の主人公であり、障害を理由とする不利益扱いが禁止されています。また、合理的配慮を行わないことも差別になります。

障害は本人にあるのではなく、社会との関係によって生まれます。差別されることによって、人と人との関係に障害が起こるのです。

近年、大人の発達障害が話題になることが多くなりました。約13％の人が発達障害といわれていますが、レッテルを貼るのではなく、その人の困り事に焦点を当て、きちんと配慮ができてこそ「合理的配慮」といえます。

お互いにサポートし合える社会環境がなくなりつつあります。一人ひとりが生き生きと輝けるまちづくりのためには、「多様性が生かされてこそ自然」という価値観が必要です。最後に、「目指せ、ステキに変！」という言葉を紹介します。これは、福元家の家訓です。「変わっていても良い。変わっていても素敵に生きることが大切なのだ」ということです。

一人ひとりが幸せを実感できるまちへ

女性チャレンジ委員会
第6期
会長　犬井美香(いぬいみか)氏
委員　香山由美子(こうやまゆみこ)氏
（発表者・中央）
委員　木場精子(こばせいこ)氏
（発表者・右）

「女性チャレンジ委員会(旧女性50人委員会)」は、女性の社会参画をより推進するために平成17年に設置されました。現在第6期(任期は2年ずつ)が平成27年4月から活動しています。

多様な生き方をしている市民一人ひとりの人権を尊重した地域づくりのために、行政サービスに頼るだけでなく、私たち自身で何ができるかを考え、事業構想を立案し、経営計画を策定する取り組みに挑んでいます。

現在、5つのグループに分かれて、事業構想の立案に向けて、地域生活者の視点から地域課題の洗い出しを行っています。その過程において、根拠・事実に基づいた現状を把握することの難しさを痛感しています。また、私たちが、日常において自分の価値観だけで物事を捉えがちであるということや、固定観念や偏見を持っていたことにも気付かされました。

今後も、見ようとしなければ見えてこない、地域に潜在化している問題にきちんと目を向けていけるよう、チャレンジ委員のみんなで頑張って活動していきたいです。

【総評】お互いの多様性を認め合うこと

コーディネーター
鹿児島県男女共同参画審議会委員
鹿児島大学
副学長　武隈晃(たけくまあきら)氏

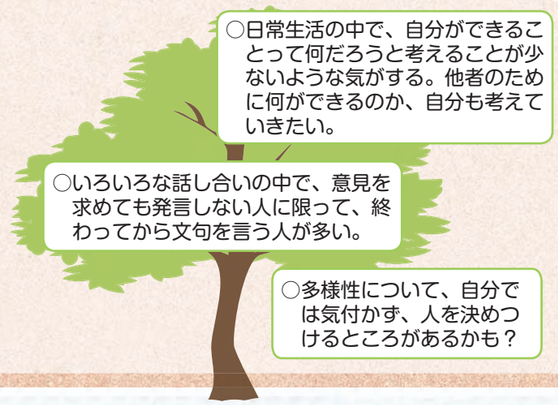
本市の第2次男女共同参画基本計画に示されている基本目標があります。パネルディスカッションのテーマはそれに沿ったものでした。

宮里さんは、従来の慣行の中で、平成20年に予防活動の重要性を認識されたことに転機がありました。福元さんは障壁に向き合っている方々について、また、犬井さんは事実情報を把握する難しさなどを話してくださいました。

皆さんと共に学びながら進行してきました。社会は多様性の中で動いています。本日の会が、お互いの多様性を認め合うための一助となれば幸いです。

第1分科会
お茶を飲みながら多様な思いに触れてみよう

多様性トレーナーの髙﨑恵(たかさきめぐみ)氏(オフィスピュア所属)の進行で、参加者は7つのグループに分かれ、パネルディスカッションを聞いて思ったことや、毎日の生活で感じていることなどを語り合いました。



第2分科会
子どもの人権が尊重され子どもへの暴力のない社会を目指して

この分科会は、せんだいCAP(キャップ)の代表　田中陽子(たなかようこ)氏の主宰で行われました。

子どもが人として生きていくための権利について、劇仕立てで分かりやすく学びました。「安心し、自信をもって、自由に生きる権利」を誰もが持っています。それを知ることは、自分が大切な存在であることに気付くとともに、自尊感情を育むことにもつながります。

また、多様性人権啓発のパイオニアである森田(もりた)ゆり氏の著書の音読もあり、参加者の心に訴えかけました。

「…私が万引きをした時には、本気で怒ってくれて、(父に)張り倒されました。そのとき、わたしは父親の愛を深く感じて、二度と万引きをすることはありませんでした。」

これは「張り倒されたこと」で万引きをしなくなったのではなく、本気で私に向き合って本気で怒ってくれたからやめられたのではないですか。よく考えてみてください。

森田ゆり著「しつけと体罰」より抜粋